

商品市況展望

平成 25 年 3 月 24 日記

今週の商品市場は、「キプロスショック」による大幅円高から急落で始まった展開であったが、今回はこの「キプロスショック」について考えてみたい。

キプロスは地中海、トルコの南に浮かぶ人口 78 万人ほどの小さな島国。その人口の 78% はギリシャ人で、主要産業は観光と金融業。他には、特にこれといった産業の無い国だ。

その主要産業の一つである金融業は、オフショア金融センターの事であり、つまりはタックスヘイブンの国として、主にロシアの金持ちの税金逃れの地として栄えていたわけだ。そのロシアマネーの総額は、推定 260 億ドル（2 兆 5000 億円ほど）と言われている。

↓

ところがギリシャ問題の発生から、キプロスの銀行は投資していたギリシャ国債の暴落で大損。経営破綻の危機に。このまま銀行が倒産すれば、当然預けた預金は返っては来なくなる。だがキプロスは産業の無い国だから、政府が銀行を救済する力は無い。だからドイツなどの EU が救済に乗り出すしかないという状態へ。

↓

もっともこれにはさすがのドイツ人も怒る。「何で、俺たちの税金をロシアンマフィアのために使わなきゃいけないんだ？」と。そりゃ、当然だ。

↓

そこで支援はいいが、「キプロスに銀行口座を持つ人は、キプロス人であろうとなかろうと、**預金に 1 回限り最大約 10% の税金が課す!**」としたわけだ。これが実行されれば、徴収税額は 58 億ユーロ（約 7200 億円）に上るとみられている。キプロスには担保もなにもないわけだし、どうせ税金逃れのカネなのだから、そのくらい出せ! という話。

↓

これに対して欧州のマスコミは、ニューヨーク・タイムズ紙のコラムニストを務める米経済学者ポール・クルーグマン氏の「まるでギリシャ語やイタリア語で『預金を下ろしておこう』と書かれたネオンサインを掲げているようだ」と批判を引き合いに出し、下手すれば「欧州全土で取り付け騒ぎが起きる」と煽って、めでたくキプロスショックの発生!

↓

これはキプロスだけで、他の国にはそんな事はしないよ! と EU は弁明し、キプロス議会も預金課税法案を否決。今に至る、という流れだ。

ちなみにキプロス同様に金融立国だったアイスランドは、2008 年に銀行を救済する道を選ばずに破綻させ、オンライン口座にあった英国人やオランダ人の預金も消滅させた。

今回そこまでせず、何とかキプロスの破綻は避けようというのは、一説には「世界のタックスヘイブンに隠れている銀行の含み損は 2000 兆円にもなるが、その含み損を表面化させないためだ」、とも言われている。また「キプロスが破綻すれば、そればギリシャからイタリアに連鎖倒産が起きてスペインまで火の手が伸び、世界的な金融恐慌が起きる。それを避けるためだ」、とも言われている。

いずれにせよ言えるのは、タックスヘイブンも安全ではなくなったという事だ。

〔貴金属〕

○東京金日足

…削除済み…

今週の金の値動き

	4月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
3月18日	¥4,873	-73	¥4,865	-70
3月19日	¥4,924	77	¥4,940	75
3月21日	¥4,954	30	¥4,969	29
3月22日	¥4,914	-40	¥4,931	-38

金相場は、先週号においては『5,000円台乗せには警戒感もあり、戻り売りも出るだろう。しかし安値はまた買われるだろうから、目先は逆張り、もみ合い相場となるのではと予測する』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けはキプロスショックで円高となった事から急落し、4,858円(3/18)の安値まで記録。しかし翌日からは切り返し、4,979円(3/21)と戻り高値を更新。だが週末はまた軟化し、その後の夜間取引では4,900円を一時割り込むなど、更に下落である。

結局は、予想通りのもみ合い相場への移行である。

振り返って見れば、アベノミクスでの円安相場で4,433円(12/21)→5,081円(2/7)まで648円幅を駆け上がった相場が、5,081円(2/7)→4,683円(3/4)まで398円下げ、そこから4,979円(3/13)まで296円の戻り、もみ合いとなっているわけだ。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年4月	¥4,307	4月25日	¥5,069	2月7日	¥3,886	6月4日	¥4,914
2013年6月	¥4,023	6月27日	¥5,068	2月7日	¥3,940	7月24日	¥4,915
2013年8月	¥4,224	8月29日	¥5,873	2月7日	¥4,166	9月3日	¥4,917
2013年10月	¥4,404	10月29日	¥5,077	2月7日	¥4,330	11月6日	¥4,922
2013年12月	¥4,519	12月25日	¥5,081	2月7日	¥4,502	12月25日	¥4,926
2014年2月	¥4,759	2月26日	¥4,979	3月21日	¥4,683	3月4日	¥4,931

○NY金日足

…削除済み…

週末3/22のNY市場は、前日比7.7ドル安の1606.1ドルでの終了。高値は1615.3ドルまであったが、為替は94.44円での終了と円高のため、国内換算では32円安である。ただしその分は、すでに夜間取引で織り込み済みだ。

チャートでは、1554.3ドル(2/21)と1560.4ドル(3/8)でW底形成の格好に見える。1620ドルが明確な上値抵抗線であるため、これを超えると完成である。

現状では一目均衡表の雲の下での推移であり、つまりは売り方勢力圏に居る相場であるものの、1640 ドル辺りまで上昇してしばらく推移をすれば、徐々にトレンドが変わる事となる。これから4月相場にかけて、そういう動きとなるのかどうか注目だ。

12月～2月の上げは「円安による国内金価格の上昇」であり、その後の急落は「円安一服の中でNY金の急落が原因」だったわけだが、**次の上げは「ドルベースの反騰」という事になるものと想定**している。しかしそれは、…中略…

もっともこれは当方の相場観であり、ゴールドマンサックス、英バークレイズに続き、**英金融大手 HSBC も金の平均価格見通しについて、2013年を従来予想の1760ドル→1700ドルへ、2014年を1775ドルから1720ドルへとそれぞれ下方修正した。**

ただし、『2013年のより遅い時期には、金融緩和、通貨戦争、地政学的緊張などが金相場を支援し、**最高で1800ドルに達する**』と見ているほか、『金融緩和政策は金価格回復の主因。政策が変わるまでは強気相場には影響がないと確信している』との強気な見方も同時に出している。

なおCFTC発表の3/19現在のファンドのポジションは、…中略…

また3/22現在でのETF残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、円安での急騰相場、ドルベースでの急落を経てもみ合い相場に移行した相場が立ち直るとした場合、まずはドルベースの反騰がきっかけとなるだろう。それは1620ドルをオーバーした場合に起きると思わる。買いトレンドの発生はそこからで、それまではもみ合い継続であろう。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	4月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
3月18日	¥4,792	-141	¥4,825	-155
3月19日	¥4,850	58	¥4,881	56
3月21日	¥4,896	46	¥4,928	47
3月22日	¥4,838	-58	¥4,880	-48

プラチナ相場は、先週号においては『基本的には押し目買いの相場であると見ているものの、現状では5,000円台を更に買い進むには材料不足。逆張り方針の相場であろうと見る』とコメントした。

今週の相場展開は、キプロスショックによる急落で5,000円→4,800円台まで一気に暴落した相場が、その後も乱高下して4,781円(3/21)まで記録。

直近の動きは、5,300円(2/8)→4,704円(3/4)まで596円下げ、そこから5,052円(3/12)まで348円の戻りを入れ(下げ幅の58%の戻り)、乱高下に移行したという場面。

やはり5,000円台を買い進むには力不足であった。結論から先に言えば、上値抵抗線5,052円、下値抵抗線4,704円のどちらに抜けるかであり、抜く力が無いならば(新たな材料が出ないならば)しばらくはこの350円幅の中でのみみ合いか。

なおキプロス問題は、欧州債務不安再燃で金を買われた一方、プラチナは欧州景気の先行き不安⇒欧州でのディーゼル車販売不振懸念⇒白金需要減退懸念の連想から売られた。その結果、再び白金価格が金価格よりも下ザヤになったわけだ。

今のところ、そのプラチナ独自の材料としては、
…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年4月	¥4,090	4月25日	¥5,255	2月7日	¥3,466	7月24日	¥4,838
2013年6月	¥3,681	6月27日	¥5,267	2月7日	¥3,460	7月24日	¥4,831
2013年8月	¥3,860	8月29日	¥5,274	2月7日	¥3,807	8月31日	¥4,835
2013年10月	¥3,998	10月29日	¥5,288	2月8日	¥3,933	10月30日	¥4,852
2013年12月	¥4,249	12月25日	¥5,300	2月8日	¥4,236	12月25日	¥4,858
2014年2月	¥4,831	2月26日	¥5,052	3月12日	¥4,704	3月4日	¥4,880

○プラチナー金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,880円(プラチナ) - 4,931円(金) = -51円。

286 円 (2/14) まで開いたところで、天井打ち。チャートでは一目均衡表の雲の下に抜け、マイナス圏へと突入である。一目チャートを見ると、-180 円程度まで逆ザヤとなった場面があれば仕掛け場かな？というところ。

それにしてもこのところのサヤチャートは、…中略…

結論として当方の相場観は、上値抵抗線 5,052 円、下値抵抗線 4,704 円のどちらに抜けるかの相場である。インパクトのある材料が出ないと、この範囲での逆張り・もみ合いの相場となるか。

〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	5月限(当限)	前日比	3月限(先限)	前日比
3月18日	¥33,500	-660	¥27,010	-470
3月19日	¥34,280	780	¥27,360	350
3月21日	¥35,100	820	¥27,710	350
3月22日	¥35,000	-100	¥27,320	-390

まずはコーンから…

先週号においては『最大1,000円のリスクを覚悟して、ここからは下げた場面を徐々に買い仕込みたい。作付面積増で売られればなお良く、その後の天候プレミアムのオンを期待したい』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けはキプロスショックによる円高での急落。その後はまた大きく切り返して、戻り高値更新の27,790円(3/21)を記録。ただし、週末はまた下落して引けた。

28,170円(2/5)→26,080円(2/27)まで2,090円の下落を演じた相場が、27,790円(3/21)まで1,710円の戻りを演じている。

チャートでは28,170円が上値抵抗線であり、26,080円が下値支持線である。

アルゼンチンのコーンは史上最大の生産高であり、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年5月	¥23,250	4月16日	¥35,400	3月22日	¥21,040	6月4日	¥35,000
2013年7月	¥21,550	6月18日	¥34,400	3月22日	¥21,490	6月18日	¥34,080
2013年9月	¥28,500	8月16日	¥29,950	3月22日	¥25,510	10月1日	¥29,800
2013年11月	¥25,600	10月16日	¥27,970	2月6日	¥24,420	11月14日	¥27,080
2014年1月	¥25,700	12月17日	¥28,170	2月5日	¥24,930	12月21日	¥27,090
2014年3月	¥27,290	2月18日	¥27,790	3月21日	¥26,080	2月27日	¥27,320

今週も一代高値更新の限月が続出だ。特に期近3本の旧穀の上げが強く、28日の在庫発表の内容によっては、一段高する可能性もあるだろう。

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末3/22のシカゴ市場は、5月限で6.75セント安の726.25セントでの終了。12月限では3.25セント安の565.25セントでの終了である。

このチャートで大きく窓を開けているところは、3月限納会→5月限が当限への移行場面だ。

サヤ出世をして、ギャップを埋めに行っているのが良くわかるチャートだ。

そこで今後の需給緩和を予測して大幅下ザヤに居る新穀だが、さてこのチャートの遥か下にいる 5 ドル台から、果たして下げて幾らあるの？というのが、当方の基本的な考え方なわけである。

なおインフォーマ・エコノミクス社は、**作付面積見通しを 9775.3 万 Ac** と予測。1 月の 9930.3 万 Ac から下方修正した。昨年実績は 9720 万 Ac である。

また CFTC 発表の 3/19 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、シカゴではファンド資金が大量に流入中。週末の米農務省発表～本格的な天候相場期への突入であり、ホットな展開が予想されるだろう。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	4月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
3月18日	¥63,000	0	¥51,840	-1300
3月19日	¥64,500	1500	¥52,640	800
3月21日	¥65,200	700	¥53,320	680
3月22日	¥65,000	-200	¥53,030	-290

続いて一般大豆です…

先週号においては『最大2,000円ほどのリスクを覚悟して、安値を買い下がりたい意向である。一時的な円高局面や、作付面積増加の観測で売られた場面が、良い買い場になるのではないかと見ている』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けにはキプロスショックからの暴落で51,800円(3/18)まで下落。しかしここからは切り返し、53,000円台は回復した。

結果的に、キプロスショックで一時的な円高局面が到来したため、そこが絶好の買い場となった模様。今後も、突っ込み場面は買いで考えたい。

チャートでは、55,450円(2/6)→50,150円(2/26)まで5,300円の急落を演じた後、そこから53,850円(3/12)まで3,700円の反騰。下げ幅の70%を戻し、今はその後のもみ合い場面である。

目先の上値抵抗線はその53,850円であり、強い抵抗線は55,450円。下値支持線は51,800円にあり、強い支持線が50,150円にある状態だ。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年4月	¥45,350	4月16日	¥65,450	3月21日	¥41,750	6月4日	¥65,000
2013年6月	¥44,700	6月18日	¥60,090	3月13日	¥44,400	6月18日	¥58,190
2013年8月	¥48,020	8月16日	¥60,100	3月12日	¥47,500	11月13日	¥58,210
2013年10月	¥47,220	10月16日	¥60,000	3月12日	¥46,920	10月16日	¥59,520
2013年12月	¥50,680	12月17日	¥55,450	2月6日	¥48,450	1月9日	¥53,190
2014年2月	¥53,000	2月18日	¥53,850	3月12日	¥50,150	2月28日	¥53,030

今週も4月限が高値を更新している。ブラジルは豊作で、米国の作付面積も今年が多いと観測されているために大幅逆ザヤであるが、この大幅逆ザヤがずっと続いているということは、段々と弱気材料は相場に織り込んで行っているのではないだろうか。

○シカゴ大豆日足

…削除済み…

週末3/22のシカゴ市場は、5月限で8.50セント安の1440.50セント。11月限は11.50セント安の1266.75セント。

今後の大豆の需給を考えると、この下ザヤに居るのは当然であるものの、**ではそこから更に幾ら下がるのか?**と問われた時は、今後の天候プレミアムのオンを考えた場合には、やはり売りからよりも買いから入りたい気持ちとなる。

3/28 には米農務省から作付意向面積の発表があるが、…中略…

また CFTC 発表の 3/19 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、週末の米農務省報告に注目である。いずれにせよ、弱材料が多い中で既に大きく逆ザヤに売られている相場であり、弱材料織り込み済みからの天候相場期入りに期待をしたい。当面は突っ込み買い方針の継続である。

[ゴム]

○東京ゴム日足

…削除済み…

今週のゴムの値動き

	3月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
3月18日	256.0	-12.5	270.9	-12.0
3月19日	258.5	2.5	273.3	2.4
3月21日	265.4	6.9	282.0	8.7
3月22日	263.9	-1.5	278.5	-3.5

先週号においては『ゴム自体には強材料が無い中で、300円で戻り売りを浴びた相場が一気に崩れた。よって相場観は中立に戻し、しばらく方向性を探るのが良いだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けには全商品が下落を演じる中でゴムも急落となり、269.5円(3/18)まで下落。しかしそこからは急反騰に転じ、21日には280円台を回復。週末はまた若干軟化して引けた。

337.8円(2/6)→281.0円(3/4)まで56.8円の下げた後、303.3円(3/11)まで22.3円の戻り。そこから2段下げに入った相場は、303.3円→269.5円(3/18)まで33.8円の下げである。

2段下げ目がこれで終了したのか？ まだ下げ道中なのか？の明確な判断は、まだ付かない。今のところ、まだ290円の回復は難しく、280円台半ばはまだ戻り売りなのでは？と考える程度だ。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年3月	253.5	9月25日	316.6	2月6日	240.0	11月12日	263.9
2013年4月	262.1	10月26日	323.9	2月6日	241.8	11月12日	264.9
2013年5月	259.7	11月27日	329.0	2月6日	245.6	11月29日	267.5
2013年6月	286.0	12月21日	334.1	2月4日	264.3	3月18日	271.3
2013年7月	316.3	1月28日	337.8	2月6日	266.9	3月18日	275.5
2013年8月	301.0	2月25日	302.1	2月25日	269.5	3月18日	278.5

当先のサヤは、3月限263.9円～8月限278.5円と**14.6円**の順ザヤ。順ザヤ幅は変わらず。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、2/28現在で421トン増の11,363トン。5旬連続の増加であり、1万トンの大台を完全にオーバー。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、22,000 元台まで下落し、23,000 元を挟んだもみ合い。こちらも明確に底打ちした形跡は無い。

タイ政府は今週、昨今のゴム価格の下落を受け、ゴムの輸出制限措置の1年間の延期を検討し、これについてゴム生産主要3ヶ国は来月10日に会合を開くと発表。高値から70円程下げ、再びタイ政府が動き出した。

一方で、マクロ経済の点からは、キプロス問題の先行き次第でリスクオフモードが進行すると、さらに下押される可能性も。

結論として当方の相場観は、戻り売りではあろうが、ゴムだけに安値を叩くと急反発して顎を刺されるだろう。よって突っ込みは着実に利食い先行とし、戻りだけ売るのがベターだろう。

〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

今週の原油の値動き

	3月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
3月18日	¥62,610	-1010	¥61,010	-1750
3月19日	¥63,300	720	¥62,130	1120
3月21日	¥63,200	-130	¥62,060	-70
3月22日	¥62,900	-300	¥61,040	-1020

まずは原油から…

先週号においては『基本的には押し目買いだと見ているが、相場はかなりの分岐点に位置しているものと想定している。そのため、場合によっては途転売り方針に一気に変わることも有り得る。ここから、月末までの動きが重要だろう』とコメントした。

今週の相場展開は、NY原油は94.09ドル(3/19)まで上昇したところで急反落。その後92～94ドルでのみみ合いに入った。

98.24ドル(1/30)→89.33ドル(3/4)までの下げ幅は8.91ドルであったが、94.09ドル(3/19)まで4.76ドル(53.4%の戻り)を入れて、現在はもみ合いに移行。

さて、このもみ合いを終了した時に、再び98ドルを目指して上げてゆくのか？ それとも89ドル割れを目指して下げてゆくのか？ まだ判然としないところである。

週末のNY原油は、前日比1.26ドル高の93.71ドルと大きく切り返しているが、これはキプロス救済への期待感からの上昇であり、さて実際のところこれがどう進むのかの判断も難しいだろう。

…中略…

なお週末のロンドンブレントは107ドル台、ドバイ原油も104ドル台となっており、先週からは軟化している。つまりNY原油の上昇は、サヤを詰めに行っている動きだと言える。

また3/19現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

東京原油は、61,000円台までの急落～急反騰～急落と激しい動きの週だった。

チャートでは、66,460円(2/13)→59,810円(3/4)まで6,650円の下落の後、63,690円(3/13)まで3,880円の戻りと、58%の戻りを演じた後のもみ合いである。

もみ合いではあるものの、一発で1,000円超動くのは当たり前であり、上下3,000～4,000円程度の幅はある状態だ。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年3月	¥52,040	10月1日	¥67,510	2月13日	¥50,610	11月12日	¥62,900
2013年4月	¥51,740	11月1日	¥67,320	2月13日	¥50,390	11月12日	¥62,350
2013年5月	¥54,860	12月3日	¥66,830	2月12日	¥52,370	12月11日	¥61,900
2013年6月	¥58,080	1月4日	¥66,690	2月13日	¥57,320	1月8日	¥61,520
2013年7月	¥62,910	2月1日	¥66,460	2月13日	¥60,070	3月4日	¥61,260
2013年8月	¥60,560	3月1日	¥63,690	3月13日	¥59,810	3月4日	¥61,040

上値抵抗線は 63,690 円であり、下値抵抗線は 59,810 円と、要は 8 月限の一代足がどちらに抜けるのかが焦点だろう。

何となくだが、上値は厳しく、抜けるなら下のような気がせんでもないが。

結論として当方の相場観は、どちらかと言えば、押し目買いから戻り売りに変化していると考え。早晩、63,690 円の戻り高値を取れなければ、それが明白となるのではあるまいか。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

今週のガソリンの値動き

	4月限(当限)	前日比	9月限(先限)	前日比
3月18日	¥77,180	-1900	¥76,090	-2130
3月19日	¥78,100	920	¥76,900	810
3月21日	¥77,990	-110	¥77,010	110
3月22日	¥76,660	-1330	¥76,020	-990

続いてガソリンです…

先週号においては『現在の値位置からどちらに抜けるのかは、非常に微妙なところであろう。79,600円と来るか、77,000円を再び割るかで、目先の方向はハッキリするかも』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けの急落で一気に76,000円までの下落となり、その後はもみ合いへ。

先週号で「79,600円と来るか、77,000円を再び割るかで、目先の方向はハッキリするかも」としたわけだが、キプロスショックという思わぬ材料ではあったものの、結果として相場は77,000円を再び割ったわけだ。これで82,000円天井、79,590円が2番天井となっただろう。

となると相場は戻り売りで、再び底値の73,260円(3/1)が本当の底なのか、と下値を試す展開になると思われる。少なくとも、2番底形成はするのではあるまいか。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年4月	¥63,400	9月26日	¥82,550	2月13日	¥62,560	11月6日	¥76,660
2013年5月	¥65,180	10月26日	¥82,380	2月13日	¥62,490	11月6日	¥76,680
2013年6月	¥67,980	11月26日	¥82,250	2月12日	¥66,480	12月10日	¥76,660
2013年7月	¥69,810	12月26日	¥82,280	2月13日	¥69,640	12月26日	¥76,670
2013年8月	¥76,550	1月28日	¥82,250	2月13日	¥73,720	3月1日	¥76,540
2013年9月	¥78,930	2月26日	¥79,590	3月12日	¥73,260	3月1日	¥76,020

3/22 現在の業者間転売価格は、…中略…

3/16 現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、79,000円台で2番天井を打った相場であろう。戻り売り対処で、もう一度73,000円台を探りに行く展開と見る。

○東京灯油日足

…削除済み…

今週の灯油の値動き

	4月限(当限)	前日比	9月限(先限)	前日比
3月18日	¥71,870	-1780	¥73,280	-1960
3月19日	¥72,800	930	¥74,300	1020
3月21日	¥72,670	-130	¥74,430	130
3月22日	¥71,650	-1020	¥73,630	-800

最後に灯油です…

先週号においては『目先は77,000円と上がるか、それとも74,000円を割れてしまうのかで相場の強弱がハッキリするだろう。しかし基本的には逆張りの相場と考えるのが妥当で、年末年始のような急騰や、2月の大暴落のような相場は当分無いだろうと見ている』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けに急落した相場が73,000円台まで下落。その後は1,000円幅の乱高下となった。

先週号において「目先は77,000円と上がるか、それとも74,000円を割れてしまうのかで相場の強弱がハッキリするだろう」としたわけだが、キプロスショックという思わぬ材料だったとはいえ、結果として74,000円を割り込んだ事で、76,870円(3/11)は2番天井だったと言えるだろう。

結論から先に言えば、これで逆張りではあるが、戻り売り相場ということが決定したか。もう一度71000円台を試しに行くのが自然だろうと見ている。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年4月	¥64,320	9月26日	¥81,700	2月12日	¥62,960	11月6日	¥71,650
2013年5月	¥64,410	10月26日	¥81,240	2月12日	¥62,530	11月6日	¥72,040
2013年6月	¥67,680	11月26日	¥81,460	2月12日	¥64,690	12月11日	¥72,170
2013年7月	¥68,440	12月26日	¥81,700	2月12日	¥68,040	12月26日	¥72,570
2013年8月	¥74,200	1月28日	¥82,030	2月12日	¥71,080	3月1日	¥73,050
2013年9月	¥76,550	2月26日	¥76,980	2月26日	¥71,500	3月1日	¥73,630

3/22 現在の業者間転売価格は、…中略…

3/16 現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、76,870円で2番天井を打った相場だろう。戻り売りのスタンスで、再度の71,000円台突入を狙うのが良いだろう。

[為替]

○ドル/円相場日足

…削除済み…

96.71 円 (3/12) まで円安が進行した後、キプロスショックで 94 円前半までの円高となり、その後は 95 円を挟んでの動きである。

材料はともかくとして、今は 95 円の地固め相場であり、指数調整の展開なのだろう。

なお来週の主な予定は、…中略…

○ユーロ/円相場日足

…削除済み…

127.69 円 (2/6) →118.70 円 (2/25) までの調整後に、**126.02 円 (3/12)** まで再び円安へ。その後また円高となった相場は、今週明けにキプロスショックで大きく円高となり、その後はもみ合いである。

商品相場のチャートは、このユーロ/円相場と酷似している状況であり、もしも 118 円台まで円高になるようなら、その時には商品相場も大きく下落している事だろう。

○ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

円安、円安と騒いでいるが、ではドル高なのかといえば、2/1 まではドルも対ユーロでは大きくドル安になっていた。

そこから急反転した相場は、現在は昨年 11 月以来のドル高/ユーロ安になっている状況だ。ドル建て金相場が大きく下落したのは、ある意味では当然であろう。

これがまた反転時転じる時が、NY 金の復活の日であろう。もっとも欧州と米国を比較した場合、米経済はシェールガス革命で好調だ＝ドル高だという事も背景にあるのだろう。

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com